

報道各位

No.19-000035T

2019年6月5日

ヒューマンタッチ株式会社

ヒューマンタッチ総研が独自分析 建設業主要各社の2019年3月期決算と20年3月期予想から見る市場動向

ヒューマンホールディングス株式会社の事業子会社で、人材紹介事業を行うヒューマンタッチ株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役:高本和幸、以下「ヒューマンタッチ」)が運営するヒューマンタッチ総研は、総合工事業(ゼネコン)、土木工事業、電気設備工事業、管工事業、プラントエンジニアリング業、住宅建設業の6業種に分けて、2019年3月期通期決算から見る市場動向をまとめました。対象は3月期決算で18年3月期売上高の上位各10社です。

【本件のポイント】

- ・6業種別主要上場企業各10社の2019年3月期通期の決算から見る建設市場動向をまとめた
- ・2019年3月期の売上高実績は5業種で前期を上回り、市場規模は拡大傾向、利益も高水準
- ・ゼネコンは減益ながら売上高は前年同期より増加し、手持ち工事の消化は順調に進行

<全体概況>

■2019年3月期の売上高実績は5業種で前期を上回り、市場規模は拡大傾向、利益も高水準

19年3月期通期の各業種主要10社合計の業績(連結)と20年3月期の業績予想(連結)をまとめると、19年3月期の売上高は、プラントエンジニアリング業を除く5業種で前期を上回り、各業種ともに市場規模は拡大傾向にあると考えられます(=図表①)。

経常利益は電気設備工事業、管工事業、住宅建設業の3業種で前期を上回り、土木工事業もほぼ前年並みを確保しており、利益面でも高水準を維持した決算であったと考えられます。

20年3月期についても、プラントエンジニアリング業を除く5業種では売上高は前期を上回る予想になっており、市場規模は拡大傾向が続くと見込まれます。

経常利益についても、プラントエンジニアリング業が黒字に転換するのをはじめ、電気設備工事業と住宅建設業では前期を上回ることが予想されています。一方、前期を割れる予想の業種もあり、明暗が分かると見込まれています。

【図表① 各業種主要10社合計の2019年3月期(連結)の実績と2020年3月期の業績予想】

	2019年3月期					2020年3月期業績予想			
	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比	傾向	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比
総合工事業(ゼネコン)	10,573,973	107.2%	871,999	97.7%	増収減益	10,883,800	102.9%	802,200	92.0%
土木工事業	1,490,475	101.0%	118,292	99.9%	増収減益	1,515,700	101.7%	114,000	96.4%
電気設備工事業	3,314,326	112.1%	239,342	106.3%	増収増益	3,552,200	107.2%	243,500	101.7%
管工事業	1,363,030	108.4%	74,116	108.5%	増収増益	1,370,400	100.5%	71,790	96.9%
プラントエンジニアリング業	2,285,499	90.7%	-74,263	-	減収減益	2,081,000	95.1%	119,700	-
住宅建設業	8,573,013	106.3%	614,445	100.2%	増収増益	8,160,679	106.3%	636,605	105.1%

以下、業種別に主要10社の決算結果を見ていきます。

<総合工事業(ゼネコン)>

■10社中9社が増収、うち6社が増収増益も、利益面で苦しく

総合工事業(ゼネコン)主要10社の19年3月期決算は、業界トップの大林組が売上高を初の2兆円台に乗せるなど好調な結果となった企業が多く、10社中9社が増収、うち大林組、清水建設、五洋建設、戸田建設、前田建設工業、三井住友建設の6社が増収増益となりました(=図表②)。首都圏再開発工事を中心とした手持ちの大型工事の消化が順調に進んで完成工事高が増加しているようです。

20年3月期の業績予想についても、底堅い民間建設需要、国土強靱化関連の公共投資増加を背景に7社が増収、うち清水建設、五洋建設、安藤ハザマの3社が増収増益を予想しています。一方、減益を予想する企業が7社あるなど、収益性の面では厳しい業績になることが見込まれています。

【図表②】ゼネコン主要10社の2019年3月期(連結)の実績と2020年3月期の予想値

	企業名	2019年3月期				傾向	2020年3月期業績予想			
		売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比		売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比
1	大林組	2,039,685	107.3%	163,054	113.3%	増収増益	2,030,000	99.5%	156,500	96.0%
2	鹿島建設	1,974,269	107.8%	162,901	90.6%	増収減益	2,040,000	103.3%	127,000	78.0%
3	清水建設	1,664,960	109.6%	133,957	107.9%	増収増益	1,760,000	105.7%	135,000	100.8%
4	大成建設	1,650,877	104.1%	157,936	85.2%	増収減益	1,740,000	105.4%	149,000	94.3%
5	長谷工コーポレーション	890,981	109.6%	100,369	99.9%	増収減益	860,000	96.5%	85,000	84.7%
6	五洋建設	541,949	102.9%	26,569	103.4%	増収増益	580,000	107.0%	29,500	111.0%
7	戸田建設	510,436	119.0%	37,493	113.5%	増収増益	520,000	101.9%	32,800	87.5%
8	前田建設工業	492,087	105.2%	38,363	103.6%	増収増益	475,000	96.5%	32,800	85.5%
9	三井住友建設	448,758	107.5%	28,862	101.4%	増収増益	460,000	102.5%	25,000	86.6%
10	安藤ハザマ	359,971	95.5%	22,495	64.7%	減収減益	418,800	116.3%	29,600	131.6%

出所：各社の2019年3月期決算短信より作成

<土木工事業>

■10社中7社が増収も、利益面でやや苦戦

土木工事業主要10社の19年3月期決算は、豊富な手持ち工事の消化が順調に進んで7社で増収となっていますが、増収増益となったのは日本道路、川田テクノロジーズ、ライト工業の3社にとどまっています(=図表③)。資材コストや人件費の高騰等の影響で、経常利益については6社が前期割れとなっており、利益面ではやや苦しい決算と言えます。

特に道路舗装大手5社(NIPPO、前田道路、日本道路、東亜道路工業、世紀東急工業)について見ると、日本道路以外の4社が減益、うち3社は2ケタ減と大幅な減益となっており、利益面での苦戦が特に目立ちました。

20年3月期の業績予想については10社中8社が増収、うちNIPPO、前田道路、東鉄工業、東亜道路工業、ライト工業の5社が増収増益と予想しています。一方、利益面では減益予想が5社と、苦戦が続く企業もありそうです。

【図表③】土木工事業主要10社の2019年3月期(連結)の実績と2020年3月期の予想値

企業名	2019年3月期					2020年3月期業績予想				
	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比	傾向	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比	
1 NIPPO	413,236	102.2%	39,022	96.7%	増収減益	420,000	101.6%	40,000	102.5%	
2 前田道路	223,757	95.5%	17,636	74.1%	減収減益	228,000	101.9%	19,100	108.3%	
3 日本道路	146,294	104.0%	8,160	112.0%	増収増益	150,000	102.5%	8,100	99.3%	
4 川田テクノロジーズ	118,369	110.4%	8,541	186.2%	増収増益	120,000	101.4%	5,800	67.9%	
5 東鉄工業	134,739	102.7%	12,704	95.5%	増収減益	137,000	101.7%	13,000	102.3%	
6 ビーエス三菱	110,279	96.0%	8,789	164.4%	減収増益	110,000	99.7%	3,500	39.8%	
7 東亜道路工業	103,676	105.6%	3,728	89.1%	増収減益	108,000	104.2%	5,300	142.2%	
8 ライト工業	102,825	102.7%	10,124	109.9%	増収増益	103,000	100.2%	10,300	101.7%	
9 世紀東急工業	74,036	90.7%	5,584	89.5%	減収減益	78,200	105.6%	5,300	94.9%	
10 日特建設	63,264	100.5%	4,004	97.2%	増収減益	61,500	97.2%	3,600	89.9%	

出所：各社の2019年3月期決算短信より作成

<電気設備工事業>

■10社中9社が増収、うち7社が増収増益と非常に好調

電気設備工事業主要10社の19年3月期決算は、10社中9社が増収、うち7社が増収増益となっており、非常に好調な結果となりました(=図表④)。特に、コムシスホールディングスと協和エクシオは同業他社を経営統合したことがプラス要因となり、売上高、経常利益ともに2ケタ増の大幅な増加となっています。

20年3月期の業績予想については10社すべてが増収、うち7社が増収増益を予想しており、全体的に好調な決算が続くと見込まれます。経営統合によるシナジー効果を狙うコムシスホールディングスと協和エクシオは、共に売上高の2ケタ増を予想しています。

【図表④】電気設備工事業主要10社の2019年3月期(連結)の実績と2020年3月期の予想値】

企業名	2019年3月期					2020年3月期業績予想				
	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比	傾向	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比	
1 関電工	563,550	111.1%	30,795	102.5%	増収増益	600,000	106.5%	33,600	109.1%	
2 きんでん	521,283	104.1%	42,491	105.2%	増収増益	560,000	107.4%	43,000	101.2%	
3 コムシスホールディングス	481,783	126.8%	36,071	117.5%	増収増益	540,000	112.1%	38,500	106.7%	
4 協和エクシオ	423,727	135.5%	33,431	126.4%	増収増益	495,000	116.8%	32,800	98.1%	
5 九電工	408,143	113.1%	39,924	106.9%	増収増益	418,000	102.4%	40,700	101.9%	
6 トーエネック	218,984	105.7%	10,146	113.8%	増収増益	220,000	100.5%	9,100	89.7%	
7 ユアテック	204,054	95.7%	10,176	81.8%	減収減益	210,000	102.9%	7,400	72.7%	
8 日本電設工業	182,464	102.0%	15,826	94.9%	増収減益	191,200	104.8%	16,400	103.6%	
9 住友電設	157,016	107.0%	11,561	111.2%	増収増益	160,000	101.9%	11,700	101.2%	
10 中電工	153,322	103.4%	8,921	76.0%	増収減益	158,000	103.1%	10,300	115.5%	

出所：各社の2019年3月期決算短信より作成

<管工事業>

■10社中9社が増収、うち4社が増収増益

主に空調設備工事等を手掛ける管工事業主要10社の19年3月期決算は、10社中9社が増収、うち高砂熱学工業、三機工業、ダイダン、テクノ菱和の4社が増収増益であり、好調な結果となりました(=図表⑤)。特に業界3位の三機工業は産業空調を中心とした事業の拡大により、売上高が前期比24.8%増、経常利益が前期比50.7%増と、大幅な増収増益となっています。

20年3月期の業績予想については10社中7社が増収、うち高砂熱学工業、大気社、ダイダン、日比谷総合設備の4社が増収増益を予想しています。利益面では5社が前期割れを予想しており、収益性の確保が課題と言えます。

【図表⑤】管工事業主要10社の2019年3月期(連結)の実績と2020年3月期の予想値】

企業名	2019年3月期					2020年3月期業績予想				
	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比	傾向	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比	
1 高砂熱学工業	319,834	110.3%	18,359	105.1%	増収増益	320,000	100.1%	18,500	100.8%	
2 大気社	225,402	97.2%	15,085	115.3%	減収増益	239,000	106.0%	15,300	101.4%	
3 三機工業	212,314	124.8%	11,204	150.7%	増収増益	200,000	94.2%	9,000	80.3%	
4 ダイダン	155,565	108.4%	8,057	105.0%	増収増益	161,000	103.5%	8,200	101.8%	
5 新日本空調	122,389	109.5%	4,235	91.2%	増収減益	115,000	94.0%	5,200	122.8%	
6 朝日工業社	88,979	104.6%	3,664	91.2%	増収減益	92,000	103.4%	2,400	65.5%	
7 日比谷総合設備	70,035	104.8%	3,212	78.5%	増収減益	75,000	107.1%	5,000	155.7%	
8 テクノ菱和	67,391	111.1%	4,857	141.8%	増収増益	63,000	93.5%	3,010	62.0%	
9 大成温調	54,849	105.7%	2,170	77.2%	増収減益	57,400	104.7%	2,000	92.2%	
10 ヤマト	46,272	100.4%	3,273	89.8%	増収減益	48,000	103.7%	3,180	97.2%	

出所：各社の2019年3月期決算短信より作成

<プラントエンジニアリング業>

■10社中7社が増収増益と好調な決算

石油精製、化学、製鉄、発電等の製造設備の施工などを手掛けるプラントエンジニアリング主要10社の19年3月期決算は、10社中7社が増収増益、うち東芝プラントシステム、タクマ、メタウォーター、太平電業、新興プランテック、富士古河E&Cの6社の経常利益が2ケタ増と、好調な結果となりました(=図表⑥)。ただし、業界2位の千代田化工建設では米国の大型LNG(液化天然ガス)プロジェクトにおいて想定外のコスト増が発生したとして、大幅な赤字を計上しています。

20年3月期の業績予想については、千代田化工建設、栗田工業、タクマ、メタウォーター、太平電業の5社が増収増益を予想しており、好調な決算が続くと見込まれます。

【図表⑥ プラントエンジニアリング業主要10社の2019年3月期(連結)の実績と2020年3月期の予想値】

企業名	2019年3月期					2020年3月期業績予想				
	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比	傾向	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比	
1 日揮	619,241	85.7%	32,304	129.6%	減収増益	500,000	80.7%	26,000	80.5%	
2 千代田化工建設	341,952	66.9%	-192,998	—	減収減益	390,000	114.1%	12,000	—	
3 東洋エンジニアリング	294,993	87.9%	3,426	—	減収増益	240,000	81.4%	3,000	87.6%	
4 栗田工業	259,409	109.5%	23,919	108.2%	増収増益	278,000	—	29,200	—	
5 東芝プラントシステム	244,239	105.0%	22,324	110.3%	増収増益	230,000	94.2%	19,000	85.1%	
6 タクマ	121,950	103.2%	12,334	115.6%	増収増益	130,000	106.6%	12,500	101.3%	
7 メタウォーター	117,342	105.8%	7,624	117.9%	増収増益	125,000	106.5%	8,000	104.9%	
8 太平電業	101,141	124.3%	4,013	117.3%	増収増益	104,000	102.8%	5,200	129.6%	
9 新興プランテック	97,331	108.6%	7,939	119.7%	増収増益	—	—	—	—	
10 富士古河E&C	87,901	109.5%	4,852	112.7%	増収増益	84,000	95.6%	4,800	98.9%	

出所：各社の2019年3月期決算短信より作成

* 栗田工業は、20年3月期より会計基準を変更する予定のため、前期比の増減率を記載していません

* 新興プランテックは、19年7月1日にJXエンジニアリング株式会社と経営統合することから、20年3月期の連結業績予想については、

現時点では予測が困難として開示していません

<住宅建設業>

■10社中4社が増収増益も、6社が減益

住宅建設業主要10社の19年3月期決算は、大和ハウス工業、ミサワホーム、フジ住宅、ミサワホーム中国の4社が増収増益となりました(=図表⑦)。特に業界トップの大和ハウス工業は売上高、経常利益ともに過去最高を記録し、業界の成長を牽引しています。ただし、経常利益を見ると6社が減益、うち2社が赤字となっており、利益面では厳しい決算の企業も多くなっています。

20年3月期の業績予想については、大和ハウス工業、飯田グループホールディングス、積水化学工業、サンヨーホームズ、アールシーコアの5社が増収増益と予想する一方、2社が減収減益を見込むなど、企業により明暗が分かれています。

【図表⑦ 住宅建設業主要10社の2019年3月期(連結)の実績と2020年3月期の予想値】

	企業名	2019年3月期				2020年3月期業績予想				
		売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比	傾向	売上高 (百万円)	前期比	経常利益 (百万円)	前期比
1	大和ハウス工業	4,143,505	109.2%	359,462	104.3%	増収増益	4,250,000	102.6%	376,000	104.6%
2	飯田グループホールディングス	1,344,987	100.7%	94,123	93.8%	増収減益	1,370,000	101.9%	96,000	102.0%
3	住友林業	1,308,893	107.1%	51,436	88.9%	増収減益	1,123,000	85.8%	57,000	110.8%
4	積水化学工業	1,142,713	103.2%	93,146	99.2%	増収減益	1,175,000	102.8%	100,000	107.4%
5	ミサワホーム	399,347	102.8%	9,114	118.8%	増収増益	-	-	-	-
6	フジ住宅	115,710	111.4%	6,445	105.0%	増収増益	107,000	92.5%	5,000	77.6%
7	サンヨーホームズ	53,888	99.6%	1,544	80.8%	減収減益	69,850	129.6%	1,910	123.7%
8	ミサワホーム中国	29,473	106.8%	467	224.2%	増収増益	26,450	89.7%	200	42.8%
9	細田工務店	22,100	116.2%	-612	-	増収減益	20,379	92.2%	215	-
10	アールシーコア	12,397	92.0%	-680	-	減収減益	19,000	153.3%	280	-

出所：各社の2019年3月期決算短信より作成

*ミサワホームの普通株式は、19年12月30日付で上場廃止となる予定であるため、20年3月期の連結業績予想を開示していません

■ヒューマンタッチ総研所長・高本和幸(ヒューマンタッチ代表取締役)のコメント

19年3月期の主要建設企業の決算結果を見ると、ゼネコン、電気設備工事業、管工事業では10社中9社、住宅建設業では8社、土木工事業とプラントエンジニアリング業では7社が増収となっており、建設業界全体として高い成長を実現した年度であったと言えます。

総務省の労働力調査によれば、18年度の建設業の平均就業者数は500万人で、前年度よりも1万人増加しています。このような成長の背景には、東京オリンピック関連の工事やインフラ整備、大型再開発事業などを確実に消化できる人材を確保できたことがあると思われます。

また、20年3月期の業績予想でもプラントエンジニアリング業を除く5業種では、売上高が前期を上回る予想になっています。増加する工事を確実に消化できる人材の確保が、事業拡大を目指す建設業各社にとって、引き続き大きな課題になると考えられます。



会社概要

ヒューマンタッチ株式会社

- 代表者：代表取締役 高本 和幸 ●所在地：東京都新宿区西新宿 7-5-25 西新宿プライムスクエア 1F
- 資本金：1億円 ●コーポレートサイト URL：<https://human-touch.jp/>
- ヒューマンタッチ総研サイト URL：<https://kensetsutenshokunavi.jp/souken/>

<このレポートに関するお問い合わせ>

ヒューマンタッチ株式会社 ヒューマンタッチ総研担当

TEL:03-6872-1027 E-mail: htsouken@athuman.com

<このリリースに関するお問い合わせ>

ヒューマングループ 広報担当：外川まで

TEL:03-6846-8002 FAX:03-6846-1220 E-mail: kouhou@athuman.com